



## 私と古代史研究

古尾谷 知浩（日本史学）

私の所属する日本史学研究室では、過去の人間が文字で書き記した文献史料に基づいて歴史を研究しています。その中で、私は古代史を専門にしています。

私の研究テーマは、主として、①天皇と律令国家、②出土文字資料、③手工業・建築の歴史の3つです。これらは一見すると無関係に思われるかもしれませんが、実は相互に関連しています。

①は、学生時代以来のテーマです。律令国家において、一般の官僚機構は太政官に統括されていますが、私が注目しているのは、太政官を通さず、天皇の意志を直接受けて動いていた機関です。これを天皇の家産機構と呼んでいます。②は、名古屋大学に転任する前、奈良国立文化財研究所で平城宮の発掘調査に従事していた頃からのテーマです。発掘は、通常考古学の範囲ですが、平城宮では木簡・漆紙文書など、文字が書かれた資料がしばしば出土するため、私のような文献史学研究者も調査に携わります。出土文字資料の中には、土器や瓦など、手工業製品・建築材料に文字を記したものもあり、手工業生産を考えるためには重要な素材です。③は①と②の延長線上で見出したテーマです。物を作ったり、建物を建てたりすることは、古代社会のなかで広く行われていましたが、国家が直接管理していたのはそのごく一部で、天皇家産機構がそれを担っていました。天皇への奉仕、天皇の神事、宮殿や天皇発願寺院の造営などに必要な物資を、家産機構で生産していたのです。

以上のような研究、特に②や③を行うためには、書物の上での研究だけではなく、直接資料を調査したり、フィールドワークを行うことが大切です。大学の授業の中でもそうしたことを重視しています。



唐招提寺講堂。もと平城宮の宮殿の一つで、奈良時代の  
おわりごろ唐招提寺に移築されて仏堂に改められた。

## お洒落な文化を味わう優雅なひとときを

研究室名：フランス文学第2研究室

フランス文学第2研究室は、フランスの文学作品の研究を行っている、とてもユニークな研究室です。授業としては、フランスの文学作品や演劇作品の講読、文法の学習、フランスの文学や音楽、美術に関する講義が行われています。これらの授業では映画などの映像資料を参考にすることも多く、毎回楽しく学ぶことができます。

特に楽しいのは戯曲の講読です。今期はモリエールの作品を読んでいるのですが、コメディーフランセーズによる上演と、その作品をもとにした現代の映画を参考に、私たちも流暢に台詞を読めるように練習しています。演劇の授業は昨年にも行ったのですが、その頃より学生の演技力に磨きがかかった気がします……

研究室紹介—File18



卒論中間発表会の打ち上げのーコマ

外国の文化にも積極的に触れようとさまざまな行事を大切にしており、七夕、クリスマス、公現祭などには皆で行事を楽しみます。最近ではボジョレーヌーヴォーの試飲会を行いました。美術館訪問やコンサート等の課外活動もあります。

研究室はアットホームで居心地がよく、ついつい皆が入り浸ってしまうほど。もちろん、入り浸って行うのは、大学生の本分である研究です。プルーストやモリエール、バルザックのような、それぞれの時代で西洋文学の中枢を成してきたフランスの文学作品を、文学、語学、史学、哲学などといった様々な観点から追究していきます。また、時おりフランス生まれのお菓子をつまみながら、教員と学生、あるいは学生同士でも、授業内外を問わず、活発な議論が交わされています。

このようにして培った広く深い教養は、国際化の進む現代社会で確実に活かされていくことでしょう。

[齊藤愛純, 山田あい (学部4年)]

### 研究室紹介—File19

## 中国文学＝「お得な学問」

研究室名：中国文学研究室

こんにちは。「中国文学って何をしていると思いますか。」  
「漢文。」「はい、正解。」

一人で失礼しました。早速、大学の授業では何をしているのか紹介します。写真は、杜甫の詩を読んでいく授業です。詩を読むのですが、詩そのものだけを見ても意味はなかなか分かりません。そこで利用するのは注釈です。注釈は僕たちよりずっと頭のいい昔の人が書いた解釈です。



あとは、詩の出典も丁寧にみながら、詩の意味や、杜甫の心情などを読み解いていきます。

このように、地道な作業を続けていくのが中国文学ですが、もしかしたら「そんなこと、したって、中国のことしか分からないいでしょ？」って思うかもしれませんね。

そこで言いたいのは、中国文学は「お得な学問」ってことです。学問に得も損もあるのか、と思うかもしれませんが、まあ置いていて…。例えば、日本史の資料。そう、公式な文章は漢文で書かれていたんです。あと、もちろん古文を理解するのに漢文は必要です。古文では、漢文の表現がたくさん使われてますもんね。他にも、今使われている言葉だって漢文で学べます。例えば、「疑わしきは罰せず」は『尚書』っていう中国の古い本からきています。

中国文学は「お得な学問」だって、ちょっと思ってもらえたでしょうか。

最後になりましたが、僕は今年の9月から1年間中国に行ってきます。去年の授業で扱われた、杜牧という晩唐の詩人が詩を書いた場所に行ってみたいと思ったのがきっかけです。実は研究室には、留学に行った人、行く予定の人、また中国の方もいて、いろいろと勉強になります。まあ、現代版「遣唐使」がたくさんいるってことですね。

さて、中国文学研究室に少しは興味を持っていただけただけでしょうか。読んでいただきありがとうございました。

[袴田 悠太 (学部3年)]

最近の文学部

## 専攻分属ガイダンス

名古屋大学文学部では、2年生の春から各専攻にわかれます。どこの専攻に行くかは自由に選択することができるのですが、この時期、各専攻の先生や先輩たちが、専門分野や研究室の雰囲気など、1年生に紹介する機会を設けています。学生生活を大きく左右する研究室の選択に、1年生たちは真剣です。(K記)

\*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...  
名大文学部のWEBサイト <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)